



2021年を振り返って

2021年も残すところあと1か月になりました。2021年のこの年に、史上初の大会延期、コロナ禍での開催というこれまでにない形で東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。しかし、大会が行われた様々な会場には、観客の姿は無く、選手たちが仲間を励ます言葉だけが響いていました。そんな中でも選手たちは、このオリンピック・パラリンピックに向けて、想像を絶するような練習を重ねながら、自分と戦い、自分と向き合いながら戦い続けてきたのではないのでしょうか。柔道100kg級で金メダルを取ったウルフ・アロン選手は、「これをやったら勝てるという正解はない」といって努力してきました。文京一中時代から努力家で、学習面でも立派な成績を収めていました。とても穏やかな性格であり、間違っていることと正しいことをしっかりと理解し、行動のできる人でした。そして、常に仲間のことを考えながら、チームをまとめていました。



陸上の車いすクラスのベテラン伊藤智也選手は、開幕前日に障害のクラスが変わり、勝ち目のないレースに臨むことになりました。レースは障害の軽い選手について行けず、予選で敗退してしまいました。それでも若い技術者たちとともに、5年間にわたって開発してきた競技用車いすに乗って、見事に自己ベストを更新することができました。伊藤智也選手の「満員の観客の中に自分と関わってくれた人がくっきりと見える、そんな風景がずっとスタートからゴールまで僕の目の前にあった。それをずっと追いかけて走ったような気がする」という言葉が印象的でした。やはり、人々はお互いに支え合いながら、また励まし合いながら生きていくことが大きな励みになり、力になっているのではないのでしょうか。

生徒たちは、オリンピック・パラリンピック教育において、オリンピックの理念(オリンピズム)、パラリンピックの理念について学びながら、オリンピック・パラリンピックの価値を体験的に学んできました。生徒たちに多くの資質・能力を身に付けさせるために、特に5つの資質(①ボランティアマインド ②障害者理解 ③スポーツ志向 ④日本人としての自覚と誇り ⑤豊かな国際感覚)について重点的に取り組んできました。茗台中学校にも多くのオリンピック・パラリンピアンの方々にお越しいただき、『障害者理解』として「障害の有無にかかわらず共に生きる共生社会の実現について」や『スポーツ志向』として、スポーツをする上での「チームワークや心身共に健康に過ごす大切さ」を学びました。

10月30日(土)に行われた学習発表会では、3年生の学年の出し物で東京オリンピック・パラリンピック組織委員会が発表した東京2020パラリンピックスポーツピクトグラム全22競技23種類のうち21種類を自分たちの体を使って披露しました。とても素晴らしかったです。その準備も時間をかけながら生徒の手で行い、お互いに助け合い「支える」活動を通して、協力し合える『ボランティアマインド』としての思いが様々な場面で見られました。



2年生の学年は、八ヶ岳移動教室に行くことができませんでしたので、学年発表では八ヶ岳のことについて質問形式で行い、舞台と会場が一体となりながら、楽しい発表を行いました。様々な人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする取組については、『豊かな国際感覚』にもつながるものでした。

1年生は職場訪問に向け、様々な職業を調べ、実際に働いている様子を劇として演技し、働くことの大変さを表現し、規範意識や公共の精神等をアピールする発表を行いました。『日本人としての自覚と誇り』にもつながる学びとなりました。

これまでの東京都オリンピック・パラリンピック教育を通して、どの学年の生徒たちも様々な面で大きく成長してきました。これからもこの学びを生かし、茗台中学校の「文・武・道 協育」を通して、お互いを思いやり、助け合い協力し合える心を育てていきたいと思えます。